

「札幌版次世代住宅基準」に関する技術検討会議
札幌版次世代住宅基準 新築素案 修正

【省エネルギー性能基準】

新築素案では、以下の5つのレベルを設定する。

(以下の項目の 印は建築関係、 は設備関係、 は両方に係わることを示す。)

<ミニмумレベル>

北方型住宅レベル以上 (熱損失係数 $1.6\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ 以下、相当隙間面積 $2.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下) とする。

<ベーシックレベル>

北方型住宅 E C O レベル以上とする。

札幌市温暖化対策推進ビジョン (案) の住宅に関する削減量達成のためには、次世代基準より 2 割の性能向上が必要。(熱損失係数 国の次世代 $1.6\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K}) \times 0.8 = 1.28\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ 以下)

<スタンダードレベル>

現行の高性能断熱材と熱交換換気を採用し、北方型住宅 E C O より概ね 2 割程度性能が向上したレベルとする。

熱交換換気の効率は 75%以上とする。

熱交換換気を採用する場合は、以下の性能を確保することとする。

熱損失係数 (熱交換換気を含む) $1.0\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ 以下

(北方型住宅 E C O Q 値 $1.3\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K}) \times 0.8 = 1.04\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$)

熱損失係数 (熱交換換気を含まない) $0.8\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ 以下

相当隙間面積 $1.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下

熱交換効率 75%以上

<ハイレベル> (自立住宅レベル)

トップランナーレベルを目指す上での一つのステップとなる水準で、スタンダードレベルの 2 ~ 3 割の建物性能の向上を図るレベルとする。

熱交換換気の効率は 80%以上とする。

熱交換換気を採用する場合は、以下の性能を確保することとする。

熱損失係数 (熱交換換気を含む) $0.7\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ 以下

熱損失係数 (熱交換換気を含まない) $0.6\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$ 以下

相当隙間面積 $0.7\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下

熱交換効率 80%以上

また、太陽光発電を導入し、今後開発が期待される高効率家電製品やヒートポンプを用いることによって、太陽光発電の発電電力で住宅内の全てのエネルギーを賄うことのできる住宅性能とする。

<トップランナーレベル>

- ・パッシブハウス相当とする。
- ・熱損失係数（熱交換換気含む） $0.5\text{W}/(\text{m}^2\cdot\text{K})$ 以下
（熱交換効率 85%以上）

〔パッシブ換気方式を採用する場合〕

パッシブ換気方式を採用する場合は、以下の性能を確保することとする。

<ベーシックレベル>

熱損失係数（換気を含まない）	$0.9\text{W}/(\text{m}^2\cdot\text{K})$ 以下
相当隙間面積	$1.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下

<スタンダードレベル>

熱損失係数（換気を含まない）	$0.8\text{W}/(\text{m}^2\cdot\text{K})$ 以下
相当隙間面積	$1.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下

<ハイレベル>（自立住宅レベル）

熱損失係数（換気を含まない）	$0.6\text{W}/(\text{m}^2\cdot\text{K})$ 以下
相当隙間面積	$0.7\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下

【夏季の日射遮蔽】

高断熱高気密住宅では、夏季の室温上昇を防ぐために、窓からの日射を遮ることが重要である。

庇やルーバー、外部のオーニングなど、有効な日射遮蔽措置を講ずることとする。